

第4学年1組 道徳学習指導案

1 主題名 よさの花をさかせよう

【内容項目】感動、畏敬の念（D 美しいものや気高いものに感動する心をもつこと）

2 教材名 「花さき山」 【出典】生きる力4（日本文教出版）

3 主題設定の理由

（1）ねらいとする価値や指導内容（学習指導要領より）

内容項目 21「感動・畏敬の念」は「美しいものや気高いものに感動する心をもつこと」である。美しいものや崇高なもの、人間の力を超えたものに関するものであり、それらに対して感動する心や畏敬の念を持った子供たちを育てようとする内容項目である。これは、低学年の「美しいものにふれ、すがすがしい心をもつ」からつなげて、高学年「美しいものや気高いものに感動する心や人間の力を超えたものに対する畏敬の念をもつこと」に発展するものである。

この内容の「美しいもの」とは自然が織りなす現象やそれらにふれたり見たりした時の経験、よりよく生きようとする心の奥深さ、絵画・写真・映像・音楽等芸術作品の美しさである。また、「気高いもの」とは高度に純化された心、人間の力を超えたものなどである。さらに、「美しいものや気高いもの、感動する心」は美しいものに心を揺さぶられ、崇高なものに関わる中で培われるものであると考える。

4年生の子供たちは想像力・感受性がより豊かになり、自然や音楽、物語の美しさだけでなく、人の心や生き物などの気高さにも気付けるようになってきていると感じる。しかし、現代社会において、子供たちが美しいと感じるものは様々な情報があふれ、本来のものが誇張していたり、多くの情報に埋もれていたりして、本当に美しいものや気高いものが見えにくく、感じ取りにくくもなっていると考えられる。そこで、道徳の学習を通して、本当に美しいものに気付き、素直に感動する心を育てていくことは、これからの人生をより豊かに過ごしていくために大変意義のあることと考えた。

（2）子供の実態と教師の願い

HP 掲載に際し、加工しています。ご了承ください。



(3)教材の特質や活用方法について

本教材は、主人公あやが道に迷い、「やさしいことをすれば花がさく」という花さき山に一人で住んでいる山ンぼと出会うところから始まる。そこには、一面に美しい花が咲いており、あやが妹のためにとった行動も、花さき山の一輪の花となって咲いているのだということを山ンぼはあやに伝えたのである。

物語においては、人のためを思うやさしい気持ち・行動が美しい花とつながっており、子供たちが気付きにくい内面的な美しさや気高さを可視化して考えることができる。また、花さき山の花が一面に咲いていることから、誰しもが美しい心を持ち備えていることに気付き、花に象徴された美しい心を身の周りから探すことにもつながるだろう。

この教材は、時代背景、生活、価値観などが現代の子供たちにとっては遠いものとなっているため、道徳の教科書においては、「花さき山」の原文の中から一部を理解しやすいように抜粋して使われている。そこで、本時の授業の終了後に、絵本の全文を読み聞かせ、あやや双子の兄以外が咲かせたであろう美しい花について考えたり、作品の情景を改めて味わうことで、よりいっそう「よさの花をさかせよう」という気持ちを高めていきたい。そして、生活の中から友達や自分の心の美しさに気付いたり、感動したりできる気持ちを育てていきたい。

4 アンケート結果と考察

(1)実態調査アンケート

1	最近感動したことはありますか（体験について複数回答）
	<p>【自然現象や芸術作品の美しさ】 13名 【心の美しさ】 10名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映画やテレビ、漫画・・・7名 ・星・・・5名 ・きれいな雲・・・3名 ・優しく声をかけてくれる友達・・・5名 ・誕生日会をしてくれた・・・3名 ・人の上靴を並べている友達を見た・・・1名 ・お母さんが作ったお弁当・・・1名 <p>【ない】 2名</p>
2	「美しい心」とはどのような心だと思いますか(複数回答)
	<ul style="list-style-type: none"> ・優しい・・・10名 ・人のために何かをする・・・7名 ・一生懸命最後まで頑張る・・・5名 ・言葉にするのが難しい・・・5名 ・見えないところでいいことをすること・・・5名 ・よくわからない・・・3名 ・わがままではない人・・・3名 ・人を守る・・・2名
3	美しい心を持っている人(複数回答)
	<ul style="list-style-type: none"> ・学級の友達・・・12名 ・先生(小学校、幼稚園、保育園など)・・・9名 ・家族(お母さん、お父さん、お兄ちゃん、お姉ちゃん、祖父母)・・・8名 ・アニメのキャラクター(アニメ『鬼滅の刃』登場人物)・・・4名

(2)アンケート結果の考察

アンケートの結果から、本学級の子供たちの過半数は、視覚的な美しいものに感動していることがわかる。一方で、心の美しさに感動しているのは10名ほどであり、内面的な美しさに気付くことが難しい子供が多くいることが分かった。設問2からは、「美しい心」とは優しい、守る、人のために何かするなど感動した場面とのつながりが大きく、その人物がもっている心ととらえている子供が多かった。設問3から、子供たちにとっての「美しい心をもっている人」は身近な人であることが多いこともわかった。漫画など架空の人物を挙げている児童もいたが、「人を思う心」ととらえていることについては共通の部分はあると感じた。

これらから、本学級の子供たちは、「美しい心」をやさしい「人のために何かする心」として身近な人の言動から感じ取っていることがわかった。その中でも、自分のために何かしてくれる人の直接的な優しさ・言動に目が行きがちで、用事がある委員会活動でのピンチヒッターやロング昼休みの自主的な教室の掃除など、自分のためというよりクラスや友達のための行動や優しさには、気付く子供が少ない状況もうかがえた。

そこで、本教材「花さき山」をもとに「心の美しさ」についてより深く考え、「美しい心」をもつことの素晴らしさ、そして自分も含め誰もがみな、「美しい心」をもっていることを実感させていきたい。

5 研究の視点との関連

【視点1】 問題意識をもち、多面的・多角的に考えるための思いを伝え合う活動

○あやの気持ちをより深く考えるための掲示物や資料の工夫

子供たちが自分の考えを深めることができるように挿絵を活用し、掲示物や吹き出し型ワークシート〔資料①〕を使用する。そうすることで、子供たちは、あやと妹の表情や、着物の様子、美しく咲いている一面の花などに着目し、様々な視点から考えることができるだろう。また、吹き出しを活用することで、あやになりきって思いを想像したり、気持ちに寄り添って深く考えたりすることができる。と考えた。

○考えを広げ深める対話活動

ワークシートの吹き出しに書いたことを基に、3、4人のグループで話し合う。様々な視点から考えたあやの気持ちについて交流することで、より広く深く、あやの心をとらえることができるだろう。特に、あやの気持ちになかなか寄り添えない子供にとって、友達の考えに納得することで、美しい花を咲かせる美しい心について、もう一度自分なりに捉えなおすことができるようになるだろう。

【視点2】 発問の吟味

○教材を自分事として捉えられるようにする発問

友達の親切な行動を想起しながら、「今、花さき山に花が咲いた!」と、思ったときはどんな時かを考えることで、一人一人が美しい心を持っていることに気付かせることができるだろう。そのことにより、お互いが美しい心を見つけ合ったり、気高い行為への意識を高めたりすることになるだろう。そして、子供が日常を振り返る中で出てくる様々な優しさや行動が、人を思う美しい心からの行動と気付くことで、友達の行動を認めることができるだろう。同時に、自分の行動もまた友達に認められることで、自己肯定感を育むことへとつながる。花さき山の花がどのような時に咲くのかを考えることは、自分事として捉え、誰しもが美しい心を持ち備えていることに気づき、花に象徴された美しい心を身の周りから探すことにつながるだろう。

6 指導構想(他の教科や教育活動などとの関連)

よさの花をさかせよう

【子供の実態と教師の願い】

○子供たちは、認識能力の発達に伴って、想像する力や感じる力が増してきているように感じる。しかし、表面的な美しさには感動できるが内面的な美しさや気高さに気付くことが難しい子供も多い。また、美しいもの気高いものに触れても、周りを意識して素直な気持ちで感動を表せない子供も見られた。そこで、日常における行為の気高さやその背景の心の美しさに気付き、素直に感動する心を養っていきたい。

【教科等】

国語「一つの花」
・父や母のゆみ子に対する思いについて、さまざまな角度から着目する。(子を思う親の心情)

理科「季節と生物」
・ギガタブレットで撮った校庭の美しい風景を共有し、自然の美しさに意識的に触れさせ素直に感動する心を育てる。

道徳①「小さな草たちにはくしゅを」
(日本文教)

D [自然愛護]

○健気に生きている小さな草たちの強さや美しさを感じとり、自然に親しみ大切にしようとする心情を育てる。

道徳②「花さき山」(日本文教) 【本時】

D [感動 畏敬の念]

○人の心にはすばらしいものや美しいものがあるということに気付き、感動し、大切にしようとする心情を育てる。

道徳③「かわいそうなぞう」(日本文教)

D [生命の尊さ]

○象の生きようとするけなげな姿を見ながらも救うことができなかった飼育員の思いを通して、生命の尊さを感じ取り、生命を大切にしようとする心情を育てる。

【日常生活】

「よさの花をさかせよう」
・みんなのために陰ながら頑張っていた友達を紹介し、認め合う態度を育てる。

「家族で共有する時間
～ほっとタイム～」
・保護者に協力してもらい、夏休み中に感動的な本や映画、きれいな風景にふれ、家庭で話す機会をつくる。美しい心に触れたり、気高いものに感動したりする態度を養う。

【事後①】

総合的な学習の時間「みんなの幸せ」(福祉)
○福祉の「福」にも「祉」にも「幸せ」という意味が込められている。「しあわせ」のためにそれぞれの人が力や知恵を出し合う「仕合せ」になるため考えていく。

【事後②】

学級活動「係活動」
○一人一人が学級をよりよくするためにできることを考え、進んで仕事ができるようにする。

7 本時の学習

(1)ねらい

人の心にはすばらしいものや美しいものがあるということに気付き、それに感動し、大切にしようとする心情を育てる。

(2)本時の評価

- ・人が誰かを思い、行動した美しい心と花さき山の花が咲くことがつながっていることに気付くことができたか。
- ・美しい心とは、人が誰かを思い、行動した心だと捉え、今後の生活に生かそうとしているか。
(観察、発言、ワークシートなどから)

(3)展開

過程	学習活動と発問(○:主な発問 ◎:中心発問) 予想される子どもの反応(・)	指導上の留意点(○)と評価(●)
事前	<p>【事前】</p> <p>①事前に教材を読み学習の見通しを持つ。</p> <p>○「花さき山」を読んで、どのように感じましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どうして山ンばは、何でも知っているの？ ・ あやみたいに自分はできない。 <p>②初発の感想を交流することで、心に残った言葉、場面、疑問に着目する。</p> <p>○「おっかあ、おらはいらねえから、そよに買ってやれ。」と言ったあやは、どんなことを考えていたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 妹のそよはまだ私より小さい。私もほしいけれど妹に買ってあげて。 ・ 私さえ我慢すればみんなが喜ぶ。 ・ 我慢したあやは切なかつたろう。 ・ おっかあは助かった。妹は喜んでいる。 <p>○双子の兄の話聞いたとき、あやはどんなことを思ったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 双子の兄。わずかな後先で生まれた兄なのに、しんぼうしててすごいなあ。 ・ 着るものではなく、食べるものを我慢してすごい。しかも、まだ1,2歳の兄なのに。 ・ 自分のことより人を思う気持ちがすばらしい。それは、あやも双子の兄も同じ。 	<p>○読み聞かせを行うことで、子供たちが物語の世界に没入できるようにする。</p> <p>○難しい言葉や、当時の生活状況など、子供たちが理解しにくいところは、適宜解説をし、物語が理解できるようにする。</p> <p>○子供たちの感想の中から、「花」に言及したものに着目させ、よさの花を咲かせるために、あやの気持ちを考えていくことを伝える。</p> <p>○そよを思うあやの気持ちや、双子の兄のことを聞いたときのあやの気持ちを考えることで、「美しい心」について考えていく。</p> <p>○考えが思いつかない子供が多いときには、あやが我慢していることに気付けるように、場面絵の表情に注目を促す。</p> <p>○思いつかない子供には、自分にも同じような経験はないか、場面を見たことはないか尋ね、共感させて考えさせる。</p> <p>○あやと双子の兄、いずれにしても、幼い兄弟のために我慢したことを確認し、その優しさや強さを感じ取れるようにする。</p> <p>○ワークシート【資料①】に書いた考えをグループで伝え合う。それらをまとめて掲示物をつくり、子供たちが振り返られるようにする。</p>

<p>導入 10分</p>	<p>【本時】</p> <p>①本時の見通しをもつ。</p> <p>○「花さき山」に出てくる花を見せて、どんなことを感じましたか。</p> <p>〔 ・ どうして咲くのだろう。 〕 〔 ・ きれいな花だな。 〕 〔 ・ この花はひがん花かな。 〕</p>	<p>○場面絵を使いながら「花さき山」のあらすじを確認し、資料①をまとめた掲示物を見ることで、前時を振り返る。</p> <p>○ブラックシアターに花を掲示し、可視化することで、やさしい心・美しい心＝美しい花という筆者の意図を子供たちがつかみやすいようにする。</p>
<p>展開 20分</p>	<p>②主人公あやの気持ちを考える。</p> <p>◎花さき山一面に花が咲く理由を聞いたあやはどんなことを考えたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こんなにたくさんの人がだれかのことを思っていて優しいことをしたんだね。 ・自分の我慢が花を咲かせたんだなあ。うれしいな。もっと咲かせたいな。 ・我慢や辛抱も相手を思う優しさなんだね。 ・優しい人がたくさんいるんだね。 <p>○花さき山が見つからないとわかっているのに、花がさいたと言ったあやの気持ちを考えましょう。花さき山はどこにあるのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花さき山はみんなそれぞれの心にあるものなんだ。一人一人の心の中にあると思う。 ・今は見えないけど、どこかにあると思う。 ・優しくした相手の心の中。 ・あるか、ないかの問題ではない。自分があると思っていればよいのだ。 <p>③本時の学習を振り返る。</p> <p>○クラスの花さき山をみてみましょう。(クラスの親切な行動について話す。)</p>	<p>○発問と関連する場面絵を黒板に掲示し、場面を想起しやすいようにする。</p> <p>○吹き出しのワークシート【資料②】に記入することで、一人一人があやの気持ちになったつもりで、考えられるようにする。</p> <p>○ワークシートの吹き出しに書いたものを基に、「花」に注目した考えや、「そよへの思い」に注目した考え、「これからのこと」への考えなどに整理してまとめることで、様々な視点に気付かせ、あやの気持ちにより深く寄り添うことができるようにする。</p> <p>●人が誰かを思い、行動した美しい心と花さき山の花が咲くことがつながっていることに気付くことができたか。</p> <p>○あやの心情を考えることで、自分なりの花さき山の在り処を考えられるようにする。</p> <p>○自分なりの「花さき山」の在り処を考え、それを認めることで、目に見えない美しい心を大切にしていきたいという気持ちを1人1人が感じられるように声かけをする。</p> <p>○優しいことをすれば花が咲くことについて考えることによって、美しい心(親切な行動)について気づき、よりよく生きようとする態度を高められるようにする。</p>

- 「4年1組の生活の中で、あの時、花さき山に花が咲いたのではないかな。」と、思うのはどんなことですか。
- ・給食のおかわりの時、他の人を考え量を調節したり、譲っていたりした。
- ・休み時間の時、ボールを譲ってあげた。
- ・友達が困っていたら優しく声をかけていた。
- ・学級文庫の本を進んで直していた。
- ・廊下に落ちていたゴミを進んで拾っていた。
- ・係や委員会など仕事が重なってしまっている友達の手伝いをしていた。
- ・脱いだ上靴をきれいに並べてあげていた。
- ・自分の掃除場所がはやく終わったら、進んで友達の掃除場所の手伝いをしていた。

○4年1組の花さき山によさの花を咲かせるために、どんなことができそうですか。

【資料③】

- ・自分のことだけではなく、人を思いやる気持ちをもちたい。
- ・誰も見ていなくても、人のために何かしてあげたい。
- ・人に優しくしてあげたい。
- ・クラスのため、学校のためを考えて係や委員会の仕事を頑張りたい。
- ・トイレ掃除は大変だけれどみんなのために責任をもって取り組みたい。
- ・自分のためだけではなく、人が喜ぶことをしたい。それが、自分の幸せにつながる。

○子供たちが気付いていないクラスの日常にある行為、人のことを思ってふと行った小さな出来事を教師が紹介し、優しいことをすると花さき山に花が咲くイメージにつなげられるようにする。

- 友達の親切な行動を想起できない子供には、今までのクラスの花さき山の中で共有できそうなものを紹介し、想起しやすいようにする。
- 友達の悲しみ、不安を心いっぱい感じて、その人の安心した笑顔を見たくて自分ができることを思わずしてしまうさりげない優しさも、花さき山の花を咲かせる美しい心であることを考えさせる。

○自分の生活を振り返り、自分が思う花さき山の花を咲かせる美しい心を、ワークシートに書くことで、自分事として捉えられるようにする。

【資料③】

○資料③の花に書いたものを、花さき山に貼り付け掲示していくことで、クラスの友達の美しい心に気付くようにする。

【資料④】

- 今後やりたいことを書いた子供には、どうしてそう思ったか問い返し、背景にクラスの友達を思う心があることに気付くようにする。
- 思いつかない子供がいた場合、自分の花を咲かせられるように、学習を振り返って考えさせる。
- 余韻をもって終わるようにする。
- 美しい心とは、人が誰かを思い、行動した心だと捉え、今後の生活に生かそうとしているか。

【資料④】



<4年1組の花さき山>(掲示物)

親切な行動を想起し、花さき山を随時掲示する。

花が咲く条件を抽象化して自分の生活を振り返る。

(4)板書計画

花さき山

あやの気持ちになつて考えてみましょう。

◎花さき山一面に花が咲く理由を聞いたあやはどんなことを考えたのでしょうか。

- ・優しい人がたくさんいるんだね。
- ・こんなにくさくさんの人が人のことを思っていたんだ。
- ・自分の我慢が花を咲かせたんだなあ。うれしいな。もつと咲かせたいな。
- ・優しいだけではいけない。時には我慢や辛抱もしているんだね。
- ・美しい一面の花は、みんなの心だね。

○花さき山が見つからないとわかっていのに、花がさいたと言ったあやの気持ちを考えましょう。花さき山はどこにあるのでしょうか。

- ・だれかに見られていなくても、心の花が咲いているから。
- ・自分の心。
- ・優しくした相手の心の中。
- ・花さき山はみんなそれぞれ心の心にあるものなんだ。一人一人の心の中。
- ・今は見えないけど、どこかにあると思う。

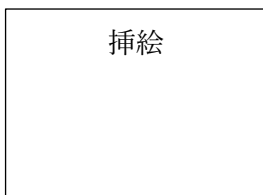
○「今、花さき山に花が咲いた!」と、思ったときはどんな時ですか?

- ・遊ぶことより当番の仕事や優先してクラスのために働いていた。
- ・給食のおかわりの時、他の人を考え量を調節したり、譲っていたりした。
- ・休み時間の時、ボールを譲ってあげた。
- ・友達困っていたら優しく声をかけていた。
- ・学級文庫の本を進んで直していた。

★人の心にはすばらしいもの、美しいものがある。



- ・おもいやりの心
- ・自分より相手を助ける心
- ・困っている人を助ける心
- ・親切
- ・他者への思い



○あなたは今、これからどうしていききたいですか? クラスの花さき山によさの花を咲かせるために、どんなことができそうですか?

ふりかえり

「花さき山」の話を聞き、主人公あやの気持ちを考えましょう。

1. 「おっかあ、おらはいらねえから、そよに買ってやれ。」と言ったあやは、どんなことを考えていたでしょう。

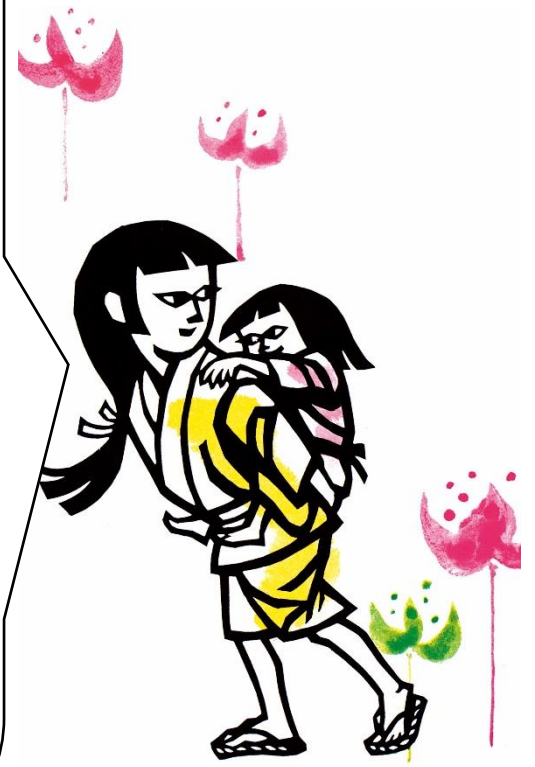
2. 双子の兄の話を聞いたとき、あやはどんなことを思ったでしょう。



ワークシート【資料①】

「花さき山」の話を聞き、主人公あやの気持ちを考えましょう。

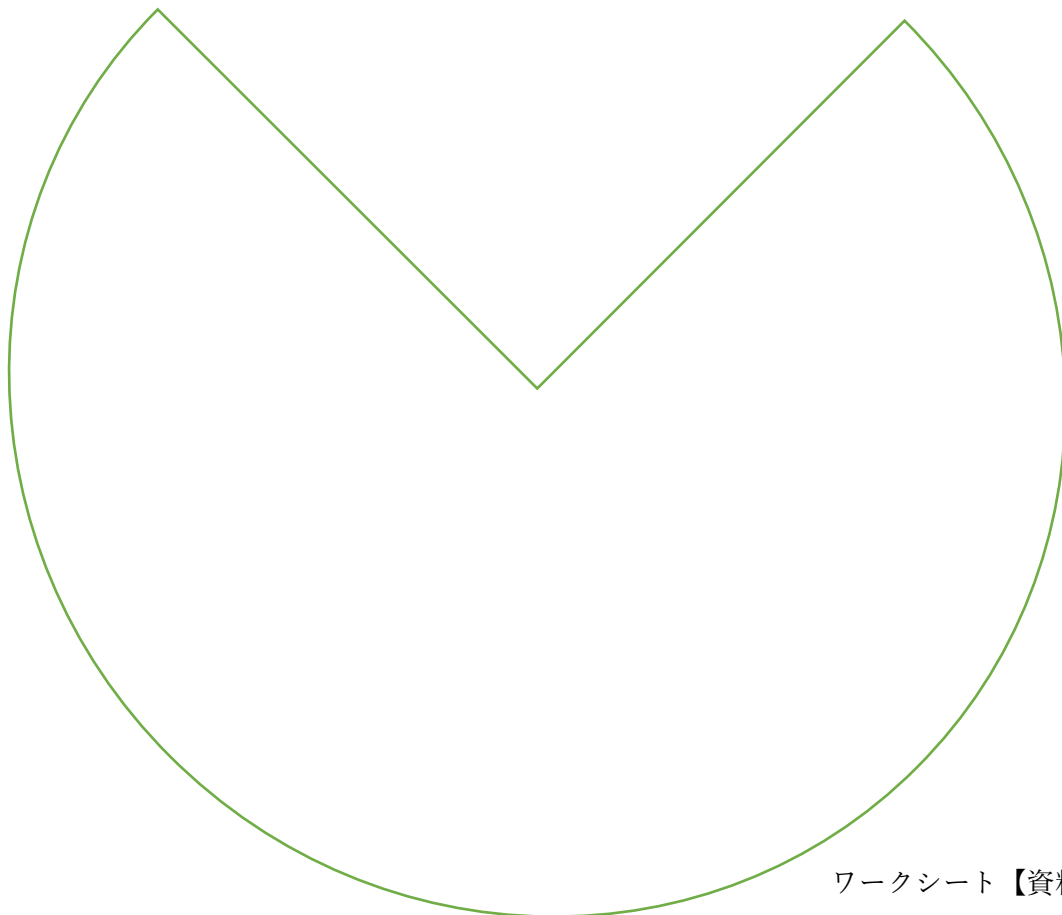
3. 花さき山に花が咲く理由を聞いたあやはどんなことを考えたのでしょうか。



ワークシート【資料②】

◎ふりかえり

あなたは、これからどうしていきたいですか。



ワークシート【資料③】

